

古賀市人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略について
論点の整理

2015年12月3日
会派・希来里（奴間健司）

論点1 新型交付金とセットで総合戦略策定を求めた国の手法をどう評価するか。

- ①今回の手法は地方の主体性を軽視し、短時間に策定を求めることで混乱を招いた。
- ②10月末までに策定した自治体は38都道府県、728市区町村。（約43%）上乗せ交付金を求める自治体は10月末までの提出が義務付けられた。地域の課題をつかんでいる自治体とそうでない自治体の差が出ている。
- ③有識者会議の未開催、市民参画の未実施などがもたらされた。
- ④国の手法について地方議会から意見を提出する必要があるのではないか。

論点2 「人口ビジョン」を容認するのか、しないのか。

- ①私の意見は、「ゆるやかな人口増策を実施し、2040年において5万9千人台をめざす」とし、これまでの意見を修正したい。
- ②現在のビジョンは、現状認識で不正確であり、合計特殊出生率でも無理がある。（2015年の人口で誤差、「転出超過傾向」を認めていない、「人口減少傾向」を認めていない。）
- ③第4次総合振興計画の人口目標65000人を下方修正しないまま今回の人口ビジョンを策定するのは明らかに矛盾している。（新宮町は人口予測を上方修正する基本構想変更議案を提出している。）

論点3 「総合戦略・戦略イメージ」をどう評価するか。

- ①「女性や若者に選ばれる子育て・教育応援都市『こが』」は、都市イメージに近く、戦略イメージとは言い難い。また、もしこれを戦略イメージというなら、基本目標、基本的政策はこれに特化すべきだ。しかし総花的でそうになっていない。
- ②私は、論点1の①の意見を前提とし、「健康と地域の仕組みづくり」を戦略イメージとすることがふさわしいと考える。地域包括ケアシステムの構築ならびに小学校単位のコミュニティづくりをサポートする行政システムを形成することを重点課題とすべきと考える。
- ③これが成功すれば、市民が安心してくらすことはもとより、アクティブに暮らし、地域経済の基礎を醸成できる。それがゆるやかな人口増をもたらすこともできる。
- ④古賀市ではこの20年間、戦略的な視点でメリハリのある政策展開、切り札が曖昧なままの市政運営が続いてきた。12年前から健康を切り口に健康寿命延伸都市を目指してきた松本市と比べると大きな差が生じていることが分かる。松本市のような地域では地方創生についてあたふたしていない。あらためて10年先、20年先を見据えて今やるべき政策を明確にした計画行政に着手すべきである。

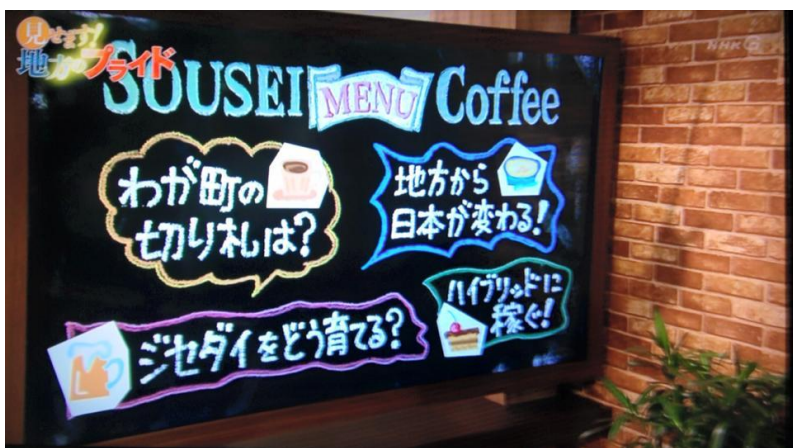
論点4 4つの基本目標と基本的政策をどう評価するか

- ①重点政策課題については11月20日に述べたとおりである。
 - ア) 2020年までにバイオマス発電を稼働させる
 - イ) 地域中核企業の支援
 - ウ) 2020年までに空き家等を活用した若い世代の入居促進
 - エ) 馬具を通じた韓国との、健康をテーマとした松本市との友好都市交流
 - オ) 産婦人科、小児科とのネットワークと保健師の訪問活動
 - カ) 小中学校での健康づくり
 - キ) 8小学校区での校区担当コーディネーター、地区担当保健師の配置
 - ク) 路線バスと小回りのきく交通手段を結合した新たな公共交通体系（利用人数250,405人を2020年度に26万人に増やす。）

<人口ビジョンの表現は正確か？>

- ①合計特殊出生率の実現目標 どうやって実現するのか？
「2010年1.52⇒2020年1.60⇒2030年1.80⇒2040年2.07」
- ②純社会移動率
「近年における社会移動の転入超過傾向をふまえて、2010年⇒2015年の純社会移動率を今後も維持する」
<実態>
社会動態の推移は、2009年178人、2010年169人、2011年153人、2012年-37人、2013年-479人。
「転入超過傾向」とは言えない。「転出超過傾向」に変化している。
- ③将来展望
「本市における人口増は現在鈍化傾向にあるが、新たな土地区画整理事業などによる受け皿の整備と子育て・教育施策の一層の推進により、2040年において6万人規模の総人口を維持することを『めざすべき将来展望』とする。」
<実態> **「現在鈍化傾向」とは言えない。「減少傾向」にある。**

人口の推移は、2010年58,504人
2011年58,775人（対前年同時期+271人） 2012年59,004人（対前年同時期+229人）
2013年58,757人（対前年同時期△247人） 2014年58,324人（対前年同時期△433人）



「見せます！地方のプライド」（11月25日のNHKテレビの画面）
古賀市のプライドを見せる時だ！
古賀市から日本を変える発信を！